

## 1 学習に取り組んでいる主な分野

|                                           |                                        |                                        |                                              |
|-------------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------|----------------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性 | <input checked="" type="checkbox"/> 海洋 | <input type="checkbox"/> 防災・減災         | <input type="checkbox"/> 気候変動                |
| <input type="checkbox"/> エネルギー            | <input checked="" type="checkbox"/> 環境 | <input type="checkbox"/> 文化多様性         | <input checked="" type="checkbox"/> 世界遺産・文化財 |
| <input type="checkbox"/> 国際理解             | <input checked="" type="checkbox"/> 平和 | <input checked="" type="checkbox"/> 人権 | <input type="checkbox"/> ジェンダー平等             |
| <input checked="" type="checkbox"/> 福祉    | <input type="checkbox"/> 生産と消費         | <input type="checkbox"/> その他（ ）        |                                              |

## 2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校では、学校教育目標「共に未来を築く、心豊かで、かしこくたくましい子どもの育成」の実現に向け、体験的な活動を通して、自ら設定した課題の解決に取り組み、環境を守る大切さや海を活用した未来を考え、実践や発信を行う ESD を推進している。

具体的には、各学年の児童の発達段階に応じて、「海に親しむ」・「海を知る」・「海を守る」・「海を活用する」の4つの段階を設定した海洋教育を柱に、諏訪川や有明海に関する学習を行った。

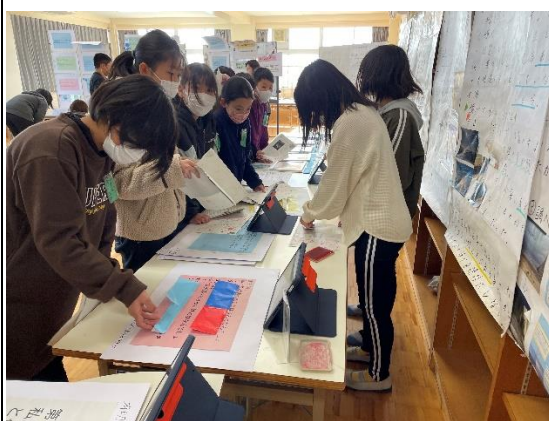


## 3 特徴的な活動事例の紹介

### ○ 宝の海である「有明海」や世界遺産である「三池港」の持続発展にかかわる学習

校区を流れる「諏訪川」やその川が流れ着く、「ふるさとの海『有明海』」を軸に据え、総合的な学習の時間を中心に「海洋教育」を教育課程に位置づけた学習を行った。そして、大牟田市の持続発展と SDG 14 番「海の豊かさを守ろう」のために、自分たちには何ができるかを考え、校内や保護者、市内、県外の地域に向けた発信や実践を行った。

具体的に、まず、1・2年生は、海洋教育の学習の基礎となる力を育成するために、生活科の時間に、公園に行って自然に親しんだり、植物を育てたりして、「自然の楽しさやよさ」について学習した。



3年生は、干潟観察活動や地域を流れる諏訪川探検を通して、有明海や諏訪川に棲む生き物について学んだ。見つけた生き物から、生物の多様性やその保護について考えた。発信の段階では、「海祭り」を開いて2年生を招待し、生き物について紹介した。

4年生は、カヌー体験や諏訪川の水質を調査して、川や海的环境について学んだ。市の環境保全課の方にG Tとして来てもらい、諏訪川の上流、中流、下流の水をパックテストで科学的に調べた。また、G Tの講話から、生き物が減っているのは生活排水が原因であることを学び、ポスター等にまとめた。

5年生は、三池港にゴミ拾いに行き、プラスチックゴミが多く落ちていることから、世界の海とつながっている有明海的环境が汚れていることを知り、有明海だけの問題ではないことを知ることができた。また、三池港・みなと振興室主催の「三池港クルージング」を通して、三池港の歴史や働き、世界の国々との繋がりを知ることができた。そして、「三池港」「海苔」「海のごみ」の3つの視点からリーフレットにまとめた。

6年生は、「海苔」「景観」「生き物」の3つのグループに分かれ、1年生から5年生までに学んだことをもとに、それぞれの視点から有明海の魅力発信を行った。下級生や保護者の方、地域の方を招いて「有明Sea Museum」と題した学習の展示会を開き、有明海苔のレシピや生き物の紹介のストーリーを考えて動画を作成し、QRコードを読み取ると、いつでも誰でも見られるように工夫して公開した。また、大牟田の景観の写真受賞者の方々の写真を紹介したり、他県の人に有明海についてのイメージをアンケート調査したりするなど、子どもたちが、広い視野をもって自分で設定した課題の解決に向けて学びを深めていった。

発信に関しては、それぞれの学年の取組は、校内のユネスコスクールの日に合わせて、校内掲示・見学を実施し、全校に広めることができた。また、地域の「どんど焼き」(天領小学校で実施)のお祭りの時に学校の体育館に掲示して紹介することで、多くの方に見てもらうことができた。さらに、市内の海洋教育推進校として3～6年生は zoom による他校(天の原小学校、駛馬小学校、みなと小学校)との交流を行い、特に6年生に関しては、さらに、「海洋教育子どもサミット in おおむた」に参加して発表し、沖縄や鹿児島、佐賀などの他県の学校との交流も実施できた。他地域の海の様子を知るとともに、有明海が他地域や世界の海と繋がっていることに気付くことができる学びとなった。どの学年の児童もE S Dの学習を通して、多面的・総合的に考える力が育まれたと考えられる。

### 3 今後の活動計画

令和5年度は、E S Dにおいて、海洋教育を柱とした体験活動や探究活動をさらに充実させていきたい。そのために、

1. 横断的・総合的なE S Dの実践を通して、P D C Aサイクルを確立させながら、令和4年度までの実践をさらに高めていく。
2. 海洋教育の目指す資質・能力を明らかにしながら系統的なカリキュラムになるように見直しを図っていく。
3. 地域の「ひと・もの・こと」を活用し、活動の内容を深めていく。
4. 今年度培った発信する技能や方法をもとに、さらに発信面に力を入れていく。